

情報通信審議会 情報通信技術分科会 電波利用環境委員会（第 65 回）

議事要旨

1 日時：令和 7 年 10 月 27 日（月）10:00～11:20

2 場所：Web 会議開催 (Cisco Webex)

3 出席者（敬称略）

【構成員】平田主査、石上主査代理、増田委員、秋山専門委員、石山専門委員、上原専門委員、河瀬専門委員、小島原専門委員、清水専門委員、杉本専門委員、曾根専門委員、田島専門委員、堀専門委員、松永専門委員、山口専門委員、山崎専門委員、山下専門委員、和氣専門委員

【関係者】雨宮氏 (VCCI 協会)、尾崎氏 (富士電機)、久保田氏 (TELEC)、塚原氏 (JQA)、松本氏 (NICT)

【事務局】総務省：向井電波環境課長、今泉電波監視官、郷藤電磁障害係長(記)、内田官

4 議事

(1) CISPR 会議審議結果について

資料 65-1 及び資料 65-2 に基づき、各作業班主任より CISPR 各小委員会の審議結果について説明が行われた後、石上主査代理より CISPR 全体総会の審議結果について説明が行われた。

情報通信技術分科会への報告にあたり、本質に関わりのない細かい字句修正等については主査一任となった。

質疑応答は次のとおり。

田島専門委員：H 小委員会の 40GHz の許容値について、ahG 9 で許容値設定モデルの議論は完了したとのことだが、今後の進め方として、WG 1 の TF で完了した許容値設定モデルを元に、CISPR TR 16-4-4 パラメータを議論した後に決定となるか。

松本関係者：所掌の分担として、ahG 9 はモデル化と許容値の試算、WG 1 ではモデルに入っていない各国規制との整合や経済的な影響等について議論するので、WG 1 でモデルのパラメータを変更することは検討していない。今後、H 議長としては、パラメータは修正せず、モデルに入っていない事項で許容値を修正する方向となっている。

山崎専門委員：B 小委員会の WG2 は MT に移行するとあるが、WG2 は解散となるのか。

久保田関係者：解散ではなく、名前が変わるのみである。時期は明確ではないが、来年までに変わるかと思う。IEC の番号付けのルールから、MT8 になるかと思われる。

平田主査：H 小委員会について、資料 65-1 の最後に「米国等の国内規格との整合性も考慮しつつ」とあるが、どれぐらいの乖離があるのか。

松本関係者：代表的には FCC のルールについて、現行の共通エミッション規格とほぼ一致しているが、1～3 GHz は測定法が違うために修正されており、6 GHz 超は 6 GHz

までの許容値をそのまま引っ張ったような許容値となる。一方。試算結果としては、アンテナ効率が落ちるため周波数に比例して許容値が増加する。この違いのため米国は反対しているが、軍用規格等では周波数に比例して許容値が増加しており、今後調整となる。各国に意見照会してはどうかという議論となっている。

(2) その他

事務局より、電波利用環境委員会報告資料(案) (CISPR 会議審議結果)については、本日の検討結果を踏まえて11月開催予定の情報通信審議会 情報通信技術分科会で報告予定であると連絡があった。

次回会合については、詳細が決まり次第、事務局よりメールで通知する旨連絡があった。

以上